I.【2024(令和六)年度の重点取組目標・計画の実施状況】

1. 地球温暖化対策(温室効果ガスの抑制)

当社では、省エネルギーに努め、CO2 排出量の削減、排出原単位の低減を図ってきました。また、2024年度の環境保全計画書において、2024年度の燃料、電力の使用量を2023年度比で、2024年度の醸造数量を分母とした原単位で1%削減することを掲げました。2024年度より生産スケジュールの見直しにより醸造数量が13%減少したこと、また電気のCO2排出係数は3.5%、ガスのCO2排出係数は9.5%減少した結果、CO2排出量は7.5%減少しています。しかしながら、醸造数量に関わらず常時必要な電力(空調や貯酒タンクの冷却など)の比率が高いため、醸造数量の減少ほど使用電力は減少せず、排出原単位は6.2%増加しております。排出総量は下表と下図の通りです。今後も実現可能な新たな目標を掲げ、CO2排出量削減に努めてまいります。

CO21計画1人が071世代タ								
項目]	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
醸造数量	란(kL)	10,735	10,469	11,065	8,561	10,533	9,167	
	重油·灯油	799						
	LP ガス			44	70	107	109	
CO2	都市がス	740	1272	1346	1212	1,306	1,104	
排出量	電力購入	2,646	2,121	2,383	1,982	2,654	2,548	
(t)	軽油・ガソリン	1						
	J- クレジッ ト売却分		655					
	合計	4,186	4,048	3,773	3,264	4,068	3,761	
排 出	原単位)	390	387	341	381	386	410	

CO₂排出状況の推移

[備考]2019 年 12 月にボイラー燃料を重油から都市ガスに変更した。また、2020 年 3 月にフォークリフトは全数バッテリー型へ更新完了した。



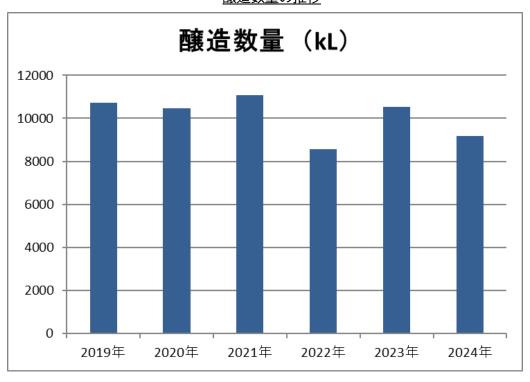
2. 省エネルギーの推進

下表、下図にエネルギー使用量・原単位、醸造数量の推移を示しました。2024 年度より働き方改革に伴う大幅な生産スケジュールの見直しにより醸造数量が13.0%減少した結果、燃料、電力、用水の使用量はそれぞれ 6.8%、0.5%、10.7%減少しました。醸造数量の減少の割に電力使用量が減少しなかった理由は、常時必要な空調にかかる電力使用量がそれほど減少せず、冷酒需要に伴う貯酒タンクの冷却に用いる電力が増加したことなどです。その結果、燃料、電力、用水の原単位はそれぞれ 7.0%増、14.3%増、10.3%の減となり、燃料、電力においては目標の達成には至りませんでした。引き続き、エネルギー管理体制をより強化し、設備稼動の効率化を重点に省エネ活動を推進します。特に電力はエネルギー消費量の約 70%を占めるに至り、高効率設備更新や電力ピークカット等の実効性のある節電対策を検討してまいります。

エネルギー使用量・原単位の推移

項目		単位	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
醸造数量		kL	10,735	10,469	11,065	8,561	10,533	9,167
燃料	総量	GJ	26,096	24,994	27,192	25,007	27,469	25,589
	原単位	MJ/kL	2,431	2,387	2,458	2,921	2,608	2,791
電力	総量	千kWh	5,961	6,019	6,224	5,794	6,115	6,082
	原単位	kWh/kL	555	575	563	677	581	663
用水	総量	千m3	177	174	187	181	181	162
	原単位	m3/kL	16.5	16.7	16.9	21.2	17.2	17.7

醸造数量の推移



総量と原単位の推移

燃料



電力



用水



Ⅱ.【公害防止対策に係わる報告】

1. 目標達成のために講じた措置・対策

TO THE PERSON OF					
目標項目		目標達成状況	講じた措置・対策		
水質汚濁	排出水の水質管理及び汚濁	水素イオン濃度、浮遊物質	排水処理施設の適正な維持管		
防止対策	負荷の総量管理	SS、温度は法令基準、管理	理に努めると共に測定計画目		
		目標値を満たしていたが、生	標値の順守状況を確認した。		
		物学的酸素要求量は法令基	生物学的酸素要求量が基準を		
		準を超えたことがあった。	逸脱した際には神戸市に報告		
		(測定結果は 2.の表に記	し、指示に従った。		
		載)。			

2019 年 12 月に重油ボイラーから都市ガスを燃料とした小型ボイラーに更新済みのため、排ガスの測定は実施していない。

2.2024 年度排出水の汚濁状態測定結果

		答	測 定	値	ት	П	П	法
項目	排水口	1 理目標値	最大	平均	主測 定 回 数	日標値を超過した回数	日標達成判定	法令基準達成判定
水素付ン濃度	嘉宝蔵西	5.5~	5.8 ~	7.0	300	0	0	0
(pH)		8.5						
	製品工場東北		5.9 ~	6.5	500	0	0	0
			7.7					
生物学的酸素要	嘉宝蔵西	1,500	3796	845	54	4	×	×
求 量 BOD	製品工場東北	200	204	87	25	1	X	0
(ppm)								
浮遊物質 SS	嘉宝蔵西	800	560	280	13	0	0	0
(ppm)	製品工場東北	30	20	1.6	25	0	0	0
¹	嘉宝蔵西	15	31.0	21.1	300	0	0	0
一温及(こ)	製品工場東北	40	38.5	30.7	500	0	0	0
	水素付〉濃度 (pH) 生物学的酸素要求量BOD (ppm) 浮遊物質SS (ppm) 温度(℃)	水素付ン濃度 (pH) 嘉宝蔵西 製品工場東北 生物学的酸素要求 量 BOD (ppm) 製品工場東北 製品工場東北 浮遊物質 SS (ppm) 嘉宝蔵西 製品工場東北 温度(℃) 嘉宝蔵西 製品工場東北 製品工場東北	項目 排水口 目標値 水素付)濃度 (pH) 嘉宝蔵西 8.5 製品工場東北 1,500 生物学的酸素要 求量 BOD (ppm) 製品工場東北 200 浮遊物質 SS (ppm) 嘉宝蔵西 800 製品工場東北 30 30 温度 (℃) 類品工場東北 45	項 目 排 水 口	項 目 排水口	項 目 排 水口	項目 排水口	項目

[備考]・排除基準値 pH:5 を超え 9 未満、BOD と SS:2000ppm 以下、温度:45℃未満

- ・BOD値はCOD測定値を換算、嘉宝蔵西は自社分析と共に毎月外部機関に分析委託
- ・測定値最大の項で pH のみ最小~最大値を表示
- ・〇:達成、×:未達成

Ⅲ.【地球温暖化対策に係わる報告】

1. 2024 年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区	燃料等	使用量等	単位	単 位	排出係数	排出量
分	の種類	原単位		発 量	kg-CO2/MJ	kg-CO2
				(MJ)		
使用燃料	LP ガス	36,294	kg	50.1	0.0597	108,519
		3.96	kg/kL			
	都市がス	528,248	Nm3	45	0.0464	1,104,038
		57.62	Nm3/kL			
電気事業者から供給		6,081,699	kWh		0.419	2,548,232
された電気量		663.43	kWh/kL		kg CO2/kWh	
合 計						3,760,790

[備考]電気の排出係数は、環境省 HP の令和 7 年提出用 電気事業者別排出係数一覧を使用した。

2. 2024 年度の計画達成状況

	前年度実績	今年度予定	今年度実績
	(2023年)	(2024年)	(2024年)
醸造数量(kL)	10,533	10,000	9,167

温室効果ガス	前々年度	前年度実績	今年度目標	今年度実績
	(2022 年)	(2023 年)	(2024 年)	(2024 年)
CO ₂ (kg)	3,264,341	4,067,676	3,823,222	3,760,790

3. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

分野	項目	細目	目標	実施状況
		昼休みの一斉消灯、食堂の	燃料・電力使用	生産スケジュ
エネルギー使用の	節電	利用時間の使用制限、室内	量、および CO2	ールの大幅な
合理化		温度管理の徹底、扇風機の	排 出 量 を	見直しによる
		活用	2023 年度に	醸造数量減に
			比べ、2024年	加え、冷酒貯
	燃料使用量の削	ボイラーの管理標準に従った効	度に醸造数量	酒に伴う電力
	減	率運転の徹底、蒸気使用設	を分母とした原	使用量が増加
製造工程にお		備の消費ロス低減	単位で1%削減	した結果、燃
ける対策	生産計画の見直	各エネルギー設備の高効率運	する。	料・電力使用
	しによる設備稼	転、夏期の設備稼働制限、デ		量および
	働の平準化、効	マンド値の抑制		CO2 排出量
	率化の実施			の原単位は目
				標を達成する
				ことができな
				かった。

IV.【公害防止対策、地球温暖化対策以外の地球保全活動に係わる報告】

2024 年度の環境保全活動に係わる具体的実施内容

	分野	項目 項目	細目	目標(前年比)	実施状況
1	節水	節水対策強化		徹底	微減
	事業所等で の廃棄物の	分別回収	紙類回収専用箱及び空容 器別回収コンテナの設置	徹底	ほぼ 100% 回収
2	適正処理・ 減量	A°-ハ°-レス化推進、コピ-用 紙の使用数削減、社内ネット ワーク、プロジェクターの利用推 進		徹底	継続
		集約印刷、裏紙」と。-用紙 の再利用		徹底	
		文具類の共同使用		徹底	継続
		廃棄物発生量の削減	再生利用、減容化の推進	徹底	継続
3	プラスチッ クに係る資 源循環等の 推進	使用不可能なパレットや P 箱、ならびに排出され る包装用透明フィルムの リサイクル		徹底	継続
4	事務所等で の再生製品 の使用	グリーン購入の実施 再生紙の使用促進	文房具、事務機器・備品 コピー用紙、パッンフレット等の再 生紙利用	50%以上	ほぼ達成
	環境負荷の少ない資材	軽量容器の採用		随時	継続
5	類の選択、 減量化	贈答ケース減容化、簡易包装 の推進		徹底	継続
		ライスインキを紙パック容 器の印刷に使用		随時	実施
		紙パック資材にFSC森林 認証紙を使用		随時	実施
		積載量の適正化	_	全車両	継続
		Iコドライブ・アイドリングストップ の推進	-	徹底	継続
6	自動車対策	低公害・省エネ・軽四車への 転換	_	買替時	実施
		トラック配送合理化	-	共同配送等の 推進	継続
		自動車運転機会の低減と 自転車利用の推進	_	徹底	継続
	特定フロン、代 替フロン等使	設備更新時、特定フロン非使用設備を導入	_	更新時	実施

7	用機器の管 理	特定フロン使用機器の適正 廃棄	_	回収の徹底	実施
	環境施設整	緑地の整備	-	構内既設全域	実施
8 備	国土交通省六甲砂防事務		随時	実施	
9	従業員教育	省エネ提案の募集	社内提案制度キャンパーン実施	2回/年	実施
10	116 1 -12 1 1	事業所周辺の清掃活動	_	毎週実施	実施
10	地域社会への参画	住吉川清掃活動への参加	_	2回/年	実施
	00岁国	蔵開放イベントの実施	_	1回/年	実施
11	品質保証シス テムの充実	ISO22000 の維持・管	内部監査の実施と監査員の 育成	随時	実施
		理			